



2024年4月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年9月11日

上場会社名 株式会社 柿安本店
コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2023年9月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年4月期第1四半期の連結業績(2023年5月1日～2023年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第1四半期	8,977		352		359		202	
2023年4月期第1四半期	9,045		859		893		592	

(注) 包括利益 2024年4月期第1四半期 220百万円 (%) 2023年4月期第1四半期 578百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第1四半期	19.35	
2023年4月期第1四半期	56.59	

(注) 1. 当社グループは2023年4月期に決算期変更を行っており、2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月決算となっております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間(2022年3月1日～2022年5月31日)と当第1四半期連結累計期間(2023年5月1日～2023年7月31日)は比較対象期間が異なるため、2024年4月期第1四半期の対前年同期比については記載していません。

2. 当社グループは、2022年2月期第1四半期は非連結の業績を開示していましたが、2022年2月期第2四半期より連結業績を開示しております。そのため2023年4月期第1四半期の対前期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第1四半期	20,254	16,338	80.7
2023年4月期	21,725	17,007	78.3

(参考) 自己資本 2024年4月期第1四半期 16,338百万円 2023年4月期 17,007百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期		0.00		85.00	85.00
2024年4月期					
2024年4月期(予想)		0.00		85.00	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年4月期の連結業績予想(2023年5月1日～2024年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	18,100		910		910		540		51.55
通期	38,700		3,050		3,050		1,900		181.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 2023年4月期(前期)は2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月の変則決算となっているため、対前年同四半期増減率及び対前期増減率は記載していません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年4月期1Q	12,446,700 株	2023年4月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2024年4月期1Q	1,972,691 株	2023年4月期	1,972,691 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年4月期1Q	10,474,009 株	2023年4月期1Q	10,467,931 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社グループは前期となる2023年4月期に決算期変更を行っており、2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月決算となっております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間（2022年3月1日～2022年5月31日）と当第1四半期連結累計期間（2023年5月1日～2023年7月31日）は比較対象期間が異なるため、対前年同期比については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が緩和され、経済活動に回復の兆しが見えてまいりました。しかしながら、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や円安等の影響による原材料やエネルギー価格の高騰により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する食関連業界におきましても、個人消費の持ち直しは見られるものの、原材料やエネルギー価格の高騰に加え、労働力不足に伴う人件費や求人費の上昇も見られる等、引き続き厳しい状況となっております。

このような環境の中、当社グループは経営基盤の強化を固める一方、ブランド力・専門性を深堀し、商品・接客サービスに更に磨きをかけることで食関連業界における差別化を図ってまいりました。

出退店につきましては、「柿安ダイニング 熊本鶴屋店」「口福堂アリオ上尾店」など4店の出店、1店の退店を行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,977百万円、営業利益は352百万円、経常利益は359百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は202百万円となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、毎月1・2・3日に柿安厳選の黒毛和牛等がお値打ちに購入いただける「一頭セール」を実施いたしました。また、地元三重県明和町のふるさと納税の返礼品として、「松阪牛」を中心とした12アイテムを出品しました。併せて広島サミットで提供された広島和牛「比婆牛」を店舗限定で販売する等、魅力ある商品展開に努めました。

退店につきましては、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は3,465百万円、セグメント利益は258百万円となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、高たんぱく・低糖質の『干し豆腐のやみつきナムル』や夏野菜を自家製のガーリックオイルで仕上げた『5種野菜とゴーヤのペペロンチーノ風サラダ』を販売する等、味だけでなく体にもおいしい商品開発に努めました。

出店につきましては、熊本県の鶴屋百貨店に「柿安ダイニング 熊本鶴屋店」を出店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,194百万円、セグメント利益は192百万円となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、「ラムネ」「パイン」等4種類の味で仕上げた『水まんじゅう』を展開しました。また、人気のフルーツ大福シリーズから、『ピオーネ大福』を販売する等、季節感のある和菓子を展開しました。

出店につきましては、「口福堂アリオ上尾店」等3店の出店を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,432百万円、セグメント利益は37百万円となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、今年3月に改装を行った「料亭本店」において、松阪牛や黒毛和牛を用いた季節を彩るお値打ちなランチ『18菜 味わい旬ランチ』を提供しました。また、グリル業態では、季節限定商品として塩レモンおろしやガーリックをトッピングしたハラミステーキとハンバーグを提供する等、様々なおいしさが楽しめる商品を展開しました。

この結果、当事業の売上高は386百万円、セグメント利益は11百万円となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、日本を代表する人気の大怪獣「ゴジラ」とコラボレーションした『ゴジラ 料亭しぐれ煮詰合せ』を販売いたしました。また、コンビニエンスストア限定商品として『黒毛和牛牛肉ひつまぶし詰合せ』を販売し、幅広い支持をいただきました。

この結果、当事業の売上高は499百万円、セグメント利益は85百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,471百万円減少し、20,254百万円となりました。

流動資産は1,504百万円減少し、13,675百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,603百万円と売掛金の増加100百万円等であります。固定資産は32百万円増加し、6,578百万円となりました。主な要因は、工具、器具及び備品の増加80百万円及び建物及び構築物の増加49百万円と繰延税金資産の減少103百万円等であります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ802百万円減少し、3,915百万円となりました。

流動負債は801百万円減少し、3,461百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少772百万円等あります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ669百万円減少し、16,338百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益202百万円の計上による増加と剰余金の配当による減少890百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年6月14日に発表いたしました2023年4月期決算短信〔日本基準〕(連結)に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,345	9,741
売掛金	2,824	2,924
商品及び製品	398	386
仕掛品	422	395
原材料及び貯蔵品	167	183
その他	21	43
流動資産合計	15,180	13,675
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,107	2,157
土地	2,153	2,153
その他(純額)	615	696
有形固定資産合計	4,877	5,008
無形固定資産	188	181
投資その他の資産		
投資有価証券	131	155
繰延税金資産	298	195
差入保証金	614	607
退職給付に係る資産	243	237
その他	192	193
投資その他の資産合計	1,479	1,388
固定資産合計	6,545	6,578
資産合計	21,725	20,254
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,273	1,272
未払金	489	533
未払法人税等	842	70
契約負債	8	22
未払費用	945	934
賞与引当金	331	171
役員賞与引当金	15	3
その他	354	452
流動負債合計	4,262	3,461
固定負債		
資産除去債務	388	388
その他	66	65
固定負債合計	455	454
負債合計	4,718	3,915

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,080	1,080
利益剰余金	18,117	17,429
自己株式	△3,531	△3,531
株主資本合計	16,935	16,247
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7	16
退職給付に係る調整累計額	80	74
その他の包括利益累計額合計	72	90
純資産合計	17,007	16,338
負債純資産合計	21,725	20,254

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
売上高	9,045	8,977
売上原価	4,063	4,198
売上総利益	4,981	4,779
販売費及び一般管理費	4,122	4,426
営業利益	859	352
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	—	2
受取給付金	30	—
その他	3	5
営業外収益合計	34	7
営業外費用		
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	893	359
特別損失		
固定資産除売却損	1	20
特別損失合計	1	20
税金等調整前四半期純利益	891	338
法人税、住民税及び事業税	308	30
法人税等調整額	△9	105
法人税等合計	299	136
四半期純利益	592	202
親会社株主に帰属する四半期純利益	592	202

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
四半期純利益	592	202
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	24
退職給付に係る調整額	△5	△6
その他の包括利益合計	△13	18
四半期包括利益	578	220
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	578	220

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約から 生じる収益	3,494	3,096	1,815	382	257	9,045	—	9,045	—	9,045
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	3,494	3,096	1,815	382	257	9,045	—	9,045	—	9,045
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	447	2	8	0	282	741	—	741	△741	—
計	3,941	3,098	1,823	383	540	9,786	—	9,786	△741	9,045
セグメント利益	332	364	370	11	13	1,091	—	1,091	△232	859

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△232百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△241百万円及びその他調整額8百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約から 生じる収益	3,465	3,194	1,432	386	499	8,977	—	8,977	—	8,977
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	3,465	3,194	1,432	386	499	8,977	—	8,977	—	8,977
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	538	0	10	1	294	845	—	845	△845	—
計	4,003	3,195	1,442	387	793	9,823	—	9,823	△845	8,977
セグメント利益	258	192	37	11	85	585	—	585	△232	352

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△232百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△243百万円及びその他調整額10百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。